

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500389		
法人名	(有)やすらぎ赤座		
事業所名	グループホームやすらぎ		
所在地	岐阜県各務原市蘇原旭町1-96-3		
自己評価作成日	平成28年12月19日	評価結果市町村受理日	平成29年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/21/idx.php?act=on_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&aj_gyosyoCd=2170500389-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成29年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の個性や能力を生かして四季折々の作業療法(手先を使ってちぎり絵や折り紙)等を行い体力作りには、ゲームやラジオ体操等、又地域とのふれあいは、秋祭りのお神輿の見学や、幼稚園の行事の見学等を楽しんでいます。又24時間医師が在中しており、安心した生活が送れます。又職員は、常に利用者との距離を縮め寄り添う介護を目標にしています。入居者の意志を尊重し、明るく、楽しい雰囲気作りに取り組んでいます。

職員の明るさや元気が利用者に伝わり事業所全体の雰囲気を作っている。買い物や外出、献立など利用者が「～したい」という気持ちを受け取り、家庭で暮らしているように利用者のペースで自由に過ごせるように取り組んでいる。医療機関が併設されているため、手厚い医療の支援が受けられて利用者・家族にとって安心して過ごすことが出来る。買い物や散歩、敷地内の庭でのお茶など外の空気に触れることを大切と考え、天気の良い日には積極的に外に出掛けるように心掛けている。体力増強のためにリハビリ体操を積極的に取り入れている。室内犬が事業所内を自由に走り回って利用者の心を和ませている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着し、近隣との交流を深めるを理念に、挨拶や会話を通じて、親近感をもって頂けるよう実践しています。	管理者は、地域の中で家族のような関係を築き、利用者が心穏やかに過ごせるように支援することを説明している。職員は、毎朝の申し送り時に気付いたことを話し合い、理念が実践できるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加して、祭りや、保育所等の行事に参加したり、地域の清掃行事に積極的に参加して交流を深めています。	民生委員から地域の祭りや幼保園の行事など情報を聞いて出掛けている。地域の秋祭りでは事業所前に神輿が集まり、利用者も住民と交流している。自治会の溝掃除に職員が参加し事業所の状況等を話している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて自治会及び民生委員さんを通じて近隣ケアの集いがある際に認知症への理解を深めてお願いしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催して、利用者への有り方及び取組状況を報告して意見を頂きサービス向上へと生かしています。	市の担当者より推進会議の年間予定を立てて欲しいと意見が出され立案しメンバー全員に配布した。会議では、地域の代表者に災害時の協力を依頼をしている。避難方法や経路などを説明してアドバイスを受けた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの入居者の依頼の問い合わせや、社協の方たちとの連絡を密にして、色々相談や要望をしたり指導を受けています	書類など解らないことや困ったことがある時は市の担当者に聞いている。事業所に空きができた時は市の担当者に相談している。生活保護の方の受入れについて相談があり受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が周知徹底し、取り組んでいる。利用者に危険が伴う場合のみ家族に了承してもらい短時間のみ行う場合があるが、それ以外は見守りにて介護し、玄関の施錠は、利用者の安全を守る為やむを得ず施錠をするときもある。	職員は併設医療機関の勉強会に参加し身体拘束について学んでいる。点滴針を刺す時に職員が付き添っているが拘束することがある。管理者は家族に口頭で説明しているが、方法や期間、時間など詳細が記入された同意書を得ていない。	身体拘束を行う場合の同意書や記録、拘束を行わない取り組みなど職員間で検討して欲しい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事務所内での虐待がないか、職員間で報告を密にして見過ごされることなく職員で防止徹底を図っていく。		

グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中には、生活支援制度や成年後見人制度を利用している方がいらっしゃいます。本人と家族等で話し合い今後も必要に応じて利用していきたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学のお越しの際に、利用料等の一通りの説明をして、納得した上で入居を決めて頂いています。又、改正の場合は、文書にて送付させて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「ふれあい箱」を設置して、気軽に意見や要望を伝えることが出来る関係作りに努めています。又地域密着会議にて、家族代表に出席して頂いて、要望等ないか、聞いています。	職員は、夜間帯に居室で利用者の要望を聞いてレクリエーションなどに取り入れている。家族が来所した時に状況を報告し意見や要望を聞いているが、「おまかせします」と言われ意見や要望を聞くことができない。	運営推進会議の報告や事業所のたよりなど定期的に事業所の取り組み、生活の状況を知らせて少しでも家族の意見を聞くことができるような取り組みを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日ミーティングを開き意見を聞いたり、年2回の職員の研修を兼ねて意見交換をしています。	管理者は、職員との対話が大切と考え自ら声を掛けている。代表者は、食事会を兼ねたミーティングに定期的に参加し、意見や要望を聞いている。外出先やレクリエーション、勤務時間など職員からの意見を取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の研修及び、懇親会を兼ねて情報交換やコミュニケーションを図り、職員の考えを把握するように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修の機会を作ったり、外部の研修の案内も進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームを訪問するなどして、交流を深め一部の職員に限らず、サービスの質の向上のためにも同業者との交流は努めていきたい。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	定期的にサービス担当者会議を開き、本人・家族・ケアマネ・管理者・計画作成担当者等で、家族や本人の要望等を聞きながら、不安を最小限にしていきたい。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居して来たときに要望等を聞きながら、導入できるものは取り入れていきたい。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族から、情報収集したり、他のサービスが必要な場合は協力を支援するよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気作りを大切に、駄目な事は注意して声を掛け合いながら一緒に日常生活を応援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人や家族の要望を聞きながらお互いが安心して生活が出来るよう、そして頻繁に家族が面会に来ていただけるような関係を築いていきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が気軽に面会に来ていただけるような雰囲気作りをして、一緒にお茶したり、時には外で買い物など安心して外出して頂いています。	地域の秋祭りの神輿が来た時に、馴染みの方から声を掛けられて話をしている。利用者の希望の馴染みの店や喫茶店、自宅まで出掛けることもある。知り合いの方が事業所に来訪された時は、職員から生活状況を伝え、いつでも来てほしいと話している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他者との人間関係が上手く築けず、孤立してしまう方もいますが、行事やレク及び作業療法等を通じて利用者同士が関わり合いをもって孤立しない雰囲気作りに努めています。		

グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した方で独居の方の相談に乗ったり、又、家族の方からはお野菜を頂いたりして交流を深めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時にどんな暮らしがしたいか、又、何か意向があれば、聞いてそれをプランに反映させています。	夜勤時に居室に入り1対1でゆっくりと話しを聞くようにしている。利用者の思いや意向は朝の申し送りで報告して情報を共有している。意思疎通の困難な方はしぐさや表情から思いを汲み取るように心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の暮らしや、サービス利用状況等をケアマネさんや、家族、社協等に聞いて把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時に本人が出来ること・出来ないことなどを聞き取りその方の一日の過ごし方をプランに生かしたい。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族との話し合いを持ち、どんな生活をしたいか、又どんな生活をしてもらいたいかな等を話し合い介護計画に反映している。	職員は、毎朝、介護計画について気付いたことを計画作成担当者に報告している。職員が3ヶ月に1回モニタリングを行っている。必要な情報を申し送りノートに記入しているが、介護計画について職員間で話し合っていない。	家族や職員、関係者の気付きやアイデアを反映した介護計画となるように職員間で話し合って欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護職員が気づいたことは、介護記録を利用して記入してもらい、それを朝のミーティング等で話し合い問題点を職員間で共有し介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々現状により、近隣ケアの参加や、美容院の利用等を支援しています。		

グループホーム やすらぎ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お花等を植えて、土いじり等を楽しみながら収穫を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療施設が常設している為、本人・家族も安心して何か異常があった場合でも、すぐに駆けつける状態にある。	利用前に事業所の方針を説明するが家族の希望で協力医に変更している。家族が受診に行けないときは職員が付き添っている。医療機関が併設されているためいつでも連絡することは出来る。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療施設の看護師がすぐそばにいたため、常時看護師とは連絡しあい、わからない事や困ったことは、まず看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者さん及び家族の方が安心して、いつでも帰ってこられるように部屋の確保はもちろんの事医療機関のケアワーカーさんと連絡を取りながら、その人にあった介護が出来るよう心掛ける。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合及び終末期の在り方は、入所時に家族と話し合い、方針を決めている。	契約時に重度化や終末期の方針について説明し家族の意向を確認している。状態が変化した時は医師より説明している。家族と早い段階から相談し併設の医療機関も含めて家族の意向に添えるように取り組んでいる。家族の希望により宿泊も出来る。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師に事故発生時に備えた応急処置の仕方等を定期的に指導して頂き、介護職員全員に周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行い、避難経路の確保や災害時の体制を職員全員で把握している。地域密着会議でも議題として意見交換している。	近隣の住民に災害時は笛を鳴らすので協力を呼び掛けている。水やガスコンロ、ビスケットなど備蓄している。夜間時の避難の訓練を行うなど工夫している。運営推進会議に避難訓練の内容を報告しアドバイスを受けている。	

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個室であるため、ある程度のプライバシーは保たれていると思われるが、部屋に入るときは、必ずノックをして入る習慣を身に付けその人の人格を傷つけない言葉使いを心掛けています。	管理者は、声掛けや見守り時にプライバシーを損ねないように説明している。職員は、利用者の表情やしぐさから言葉掛けを工夫し人格を損ねないように心掛けている。本人が意思表示しやすい呼び名で声を掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、介護職員が出しやばらず、本人の意志及び自己決定が出来る雰囲気を作り自分で選んでもらえる習慣を作る。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせて見守りながら支援していく、食事の時間やその人のペースに合わせて食事時間も焦らずゆっくりとして頂き、入浴もその日の体調に合わせて入って頂きます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1か月に1回ぐらいのペースで、美容院に歩ける方は、散歩がてら行ってもらい、歩行困難な方は、出張してもらい身だしなみに気を付けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	なかなか、全員の嗜好物を提供することは大変ですが、出来る限りそれに応えられるよう努力している。季節の野菜などで、見た目にも楽しんでもいただけるようにしています。後片付けは当番制にしてお手伝いをしてもらっています。	暖かい時は隣の公園に出掛け、お茶やおでん等楽しんでいる。誕生日にはケーキを手作りしてお祝いをしている。利用者に食べたい物を尋ね急ぎ献立を替えるなど利用者の希望を取り入れている。調理や下ごしらえ、後片付けなど利用者が手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者さんの疾病等により、カロリー制限・食事制限・水分制限等がある場合は、主治医に従って行っています。その他の方には脱水にならないよう気を配りながら、介護職員全員に周知徹底しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けをして、出来る方は自分で歯磨きをしていただき、出来ない方は、介助をし、入れ歯の方は外して洗い、週1回は洗浄液につけて消毒しています。		

グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は一人一人把握して取り組んでいます。極力オムツはせずに部屋にポータブルを使用したり、トイレ誘導をしたりしています。	排泄パターンを把握して早目に声を掛けています。夜間帯でもトイレでの排泄を大切にし、誘導している。声掛ける時間を工夫して成功した事例を報告し、オムツを使用しないように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食事を考えて、食物繊維を多く摂取し、乳製品等を取り入れたり、水分補給をこまめに取り入れ、運動不足にならないように日課に体操を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を聞いて、入浴する順番を決めている。体調や、気分がすぐれない方は、後日体調のいい日に入って頂くようにしています。介助の方はプライバシーに配慮しながら、入浴して頂いています。	希望により毎日でも入浴することは可能である。職員は、浴室の室温に気を付けたり、利用者が出来ることを見守ったりしながら、利用者のペースでゆったりと気持ち良く入ってもらえるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冷暖房を各部屋に設置してあり、室温・風向き等の環境を整えています。又、天気の良い日は、布団を干して気持ちよく睡眠がとれるよう気を配っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示に従い用法・用量等は、職員全員で周知徹底して行っています。又、体調の変化に気が付けば、看護師に相談したり、すぐ医師に報告しています。毎朝医師に申し送りを行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの行事や、塗り絵・カレンダー作り等をしていただいています。又、洗濯の好きな人は干し物や、たたみ物を手伝って頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域のお祭りや、花見に近くの公園に出かけたり又、家族に買い物などに連れて行って頂いたり、民生委員さんに声を掛けて頂いて近くの保育所の行事に見学に行ったりしています。	桜や藤の花見、紅葉等外出し季節を楽しんでいる。買い物や喫茶店など利用者の希望に合わせて外出している。玄関前でプランターに花を植えたり、庭のみかんの収穫をしたりしている。1年に2度の航空ショーの外出も楽しみである。	

グループホーム やすらぎ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来る方は、自分で財布を持ち買い物に連れて行ったり、出来ない方は事務所で預かったり、市の生活支援の方が管理したり、青年後見人制度を利用したりしていますが、本人の意向に沿って欲しい物や必要な物はその都度買っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	週1回～2回面会に来ていただいています。面会に来られない方は、手紙や電話で連絡して頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、四季折々の生け花やホールには入居者さんの共同作業の作品を飾り、季節感が感じられるようにしています。台所が身近にあり料理の香りや音も楽しみであり、又、室内犬との触れ合いも癒しとなっています。	玄関先や玄関には利用者と育てた花や利用者と一緒に作った花餅や節分など季節の飾り物がリビングに飾られて季節感を醸し出している。事業所内を室内犬が自由に走り回り利用者の心を和ませている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内で他の人との会話を楽しんだり、天気の良い日は庭に出て、日向ぼっこをしながら、気の合った者同士で会話を楽しんでいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具や、身の回りの品をもってきていただき、自宅との距離感がないよう自分なりに配置等を考え工夫しています。	仏壇や遺影など利用者の思い出の品物を持ち込んでいる。自由に居室でお茶を飲めるように水道と湯呑が置いてある。居室で利用者が体調管理の記録を付けたり、ベランダの花に水をあげたり居心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員の見守りの中、自分の部屋の掃除・洗濯等出来ることはして頂き、自立した生活が送れるよう支援しています。		

1 自己評価及び外部評価結果(2ユニット目「入居者なし」のため無記入)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500389		
法人名	(有)やすらぎ赤座		
事業所名	グループホームやすらぎ		
所在地	岐阜県各務原市蘇原旭町1-96-3		
自己評価作成日	平成28年12月19日	評価結果市町村受理日	平成29年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/21/i/ndex.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&aj_gyosyoCd=2170500389-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成29年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				